

施策コード	6-5
-------	-----

中心所管課	公共施設マネジメント課
関連所管課	

第6章	市民とともに歩むまちづくり -地域・行財政-							
基本施策名	5 公共施設の適正な管理							
総合計画の目標指標								
指標名	単位	策定時	実績値			目標値		SDGs独自指標
		R2	R3	R4	R7	R12		
公共施設の延べ利用者数	千人	1,854	1,049		1,900	2,000		
建物床面積1㎡あたりの施設維持管理費用(市負担額)	円	26,320	32,886		26,000	25,000		

施策の内容(主な取組)		
単位施策名	実績・成果	今後の方向
1 まちづくりにつながる公共施設の配置	蒲郡市公共施設マネジメント実施計画の見直しを行い、施設整備を進めるための方策を整理した。 蒲郡北地区・大塚地区において、地区利用型施設の再編について地区住民の意見を伺うワークショップを開催した。	蒲郡駅周辺エリアにおいて、市民の居場所となる場を形成するための施設整備の検討に着手する。 未策定の地区個別計画を策定し、順次、施設の整備を行う。
2 公共施設を安全に利用するための適正な管理、計画的な修繕	公共施設の実態調査を実施し、施設所管課における建物の劣化状況の把握を促した。 予防保全の考えに基づく計画的な修繕を行うため、施設の維持管理計画である個別施設計画の総合的な調整を実施した。	引き続き、施設実態調査や個別施設計画の調整を実施し、適正な施設管理を促していく。
3 施設量の適正化と効率的な運営による将来負担の抑制	西部防災センター、塩津北保育園など、廃止した施設を除却し、施設量の適正化を行った。 施設更新等の時期の調整により将来負担を軽減するため、個別施設計画の総合的な調整を行った。	機能の融合や配置の適正化を通じて施設量の適正化を図るとともに、引き続き、個別施設計画の調整を実施していく。 施設の魅力向上や効率的な運営のため、民間活力の導入の検討を進める。
4 公共施設マネジメントの推進体制の整備	全庁横断的な体制で取組を進めていくため、必要に応じて公共施設見直し検討委員会等を開催し、情報共有を行った。 公共施設の実態調査により、利用状況、コスト状況、建物劣化情報など一元管理を進めた。	引き続き、全庁的に情報共有を行うとともに、情報の一元管理を続けていく。

個別計画の目標指標								
計画名	蒲郡市公共施設マネジメント実施計画				計画期間	平成29年度～令和28年度		
指標名	単位	策定時	実績値				目標値	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R12
全市利用型施設における取組完了施設の割合	%	—	0.0%				35.0%	80.0%
地区個別計画の策定地区の割合	%	28.6%	28.6%				100.0%	100.0%

主要事業の実績評価					
施策番号	事業名	事業費(千円)		実績(R3年度)	今後の方向
		R3(決算額)	R4(予算額)		
		人工			
1	まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ	12,001	8,338	蒲郡北地区・大塚地区において地区住民の意見を伺うワークショップを開催。	未実施の形原地区のワークショップを開催する。
		1.4人工			
1	公共施設マネジメント実施計画の見直し	3,432	0	外部有識者の意見を伺いながら、時代の変化に合わせた計画に見直し。	実施計画の内容に基づき進捗管理を行う。
		0.7人工			
2 3 4	施設情報の一元管理及び個別施設計画の総合的な調整	660	660	実態調査等で収集した情報を一元管理し、各施設の個別施設計画を調整。	引き続き情報を蓄積し、施設の適正管理や将来負担抑制につなげる。
		0.4人工			

総括評価	成果・課題	地区利用型施設については取組が進んでいるが、全市利用型施設については取組が遅れている。多くの施設で老朽化が進んでいるが、一斉に更新できる状況にはないため、優先順位を付けながら長寿命化と併用して計画的に施設整備を行っていく必要がある。
	今後の方向	今後、蒲郡駅周辺エリアにおいての取組が動き出す。魅力的な施設を持続的に運営していくためには、今後の施設整備や運営への市民参画や民間活力の導入が求められるため、市民・行政双方の意識改革や担い手の育成が重要であると考えられる。